

花き

【トルコギキョウ】

無加温作型の温度管理

3月に入ると日差しが強くなりますので、ハウスの温度管理に最も注意したい時期です。晴れた日の日中は、ハウス内が30℃を越える日も多くなります。日中は25℃を目標に、二重カーテンを開放し、施設のサイド換気やトンネル被覆の開閉をこまめに行い、施設内の



日中は小トンネルを外して光を十分当てる



苗が小さいうちは部分的→な換気をする。

温度を上げすぎないように管理します。このとき冷たい外気が直接トルコギキョウの株に当たると生長が遅れますので、片換気等による換気を行ってください。

ハウスを閉める時間帯は、午後4時頃を目安にトンネル被覆やカーテンを閉め、昼間の温度と夜間の温度の差をできるだけ小さくして、品質向上を図ります。

かん水は栽培床を冷やささないよう、暖かい日の午前中に行いましょう。また、生育の遅れや不揃いの場合は、かん水は控えめにし、保温に努めます。

アザミウマ類によるウイルス病の発生が増加しています。定植初期から定期的に病害虫防除の徹底をお願いします。

【アリウム類】

温度管理

晴れた日の日中には、トンネル内の気温が30℃を超える時間帯もあります。トンネルは早めに外し、日中25℃以下を目標に換気を行います。換気は、ハウスの天井や肩部分を開けるようにし、外の冷気が直接当たらないようにします。また、土も乾燥しますので表面が乾いてきたらかん水をします。切花の長さを確保するには水が大切です。特にマルチを被覆していない場合はこまめに確認してください。

その一方で、3月でも最低気温が-5℃くらいまで冷え込むことがあります。凍害が出ないように、保温にも注意をしてください。



←日が長く暖かくなってくると、ギガンチウムもどんどん生育します。

凍害に合わないよう、ハウスの開閉、保温に注意してください。